

左右海岸における海産動物相

伊 藤 十 治

場 所 左右海岸（採集場所）

つるぎ旅館（宿舎）

期 日 昭和44年7月30日～31日（2日間）

参加者 成和中学校、足羽中学校、明倫中学校、東安居小学校、至民中学校、高志高校、鰐江高校の理科の先生と生徒達、博物館関係者 計 70名

講 師 前横浜国立大学教授 理博

酒井 恆先生

日 程 7月30日 午後から呼鳥門より蒲生方面へ磯採集。場所は、海岸よりすぐ深くなっていること・海藻の着生が少ないこと・大きな岩磯よりできあがっている沖岸であることなどの悪条件なるため、採集が非常に困難であった。夜は講師による採集物の同定。7月31日は風雨なるため、磯採集は中止。昨夜の未整理による採集物の同定を11時頃まで行ない、その後は酒井恒先生の講話、「空から海底へと探検のめやすは変化しつつある。海底は800気圧以上で光は全く通らないし、音もしていない暗黒の土地であるからそこへ行くのに非常に困難である。ジェットの発射は、イカの運動からヒントを得、それが宇宙の遊泳にも参考になる。水だまりにいるハイドロゾアの発射（吸水しては吹き出すしぐみでこれが2段3段とはなしで飛んでいく）など自然界の知恵は数限りがない……」時間がたつのも忘れて講話を聞く。

採集物——次の通りである。

海綿動物……ユズダマカイメン、ムラサキカイメン、ノリカイメン（3種）

腔腸動物……テツイロイソギンチャク（1種）

扁形動物……ウスヒラムシ（1種）

紐形動物……ヒモムシ（1種）

環形動物……クロホシムシ、カンザシゴカイ s p、ウズマキゴカイ、ゴカイ、シリス s p、

ウミケムシ(6 種)

軟体動物……クサズリガイ、ババガセヒバリガイ、ベッコウカサガイ、ヨメガカサ、アオガイ、
コシダカガニガラ、ヒメクボガイ、クボガイ、イシダタミ、クロズケガイ、スガ
イ、アラレタマキビ、タマキビ、オオヘビガイ、カニモリガイ、レイシ、イソニ
ナ、フデガイ s p 、ミドリアメフラシ、クロヘリアメフラシ、アメフラシ、アマ
クサアメフラシ、シロウミウシ(24 種)

節足動物……ウオジラミ、ヨコエビ、ウミセミ、ホンヤドカリ、イボガニ、ヨツバモガニ、イ
ワガニ、イソガニ、ヒライソガニ(9 種)

棘皮動物……クモヒトデ、イトマキヒトデ、ヒトデ、ヤツデヒトデ、トゲクモヒトデ、バフン
ウニ、マナマコ(7 種)

脊椎動物……ハタ s p 、メジナ、クサフグ、キヌカジカ、イダテンカジカ、イソハゼ、ドンコ、
ナベカ、ギンボ(9 種)

==== 合計 61種 =====

進明中学校 教諭